

○水生生物モニタリング調査結果一覧（宇多川C）

＜宇多川C 水質底質採取項目＞

項目	一般分析項目		放射性物質分析項目			
調査地点	水質	底質	水質 (Cs)	水質 (Sr)	底質 (Cs)	底質 (Sr)
C－6	○	○	○	○	○	○

＜宇多川C 現場測定項目＞

項目	調査緯度・経度		調査日時			水質	底質				その他	
調査地点	緯度	経度	日	時刻（水）	時刻（泥）	水温（℃）	泥温（℃）	性状	色相	混入物	全水深（m）	透視度（cm）
C－6	37.7764°	140.8877°	R6.6.26	10:21	10:34	18.9	19.6	砂	10YR4/2	なし	0.31	>50

＜宇多川C 一般分析項目・放射性物質分析項目 水質＞

項目	調査緯度・経度		調査日時		pH	BOD (mg/L)	COD (mg/L)	DO (mg/L)	電気伝導率 (mS/m)	塩分	TOC (mg/L)	SS (mg/L)	濁度 (度)	Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)	Sr-90 (Bq/L)
調査地点	緯度	経度	日	時刻												
C－6	37.7764°	140.8877°	R6.6.26	10:21	7.8	0.6	2.7	9.3	12.0	0.06	1.2	1	1.4	N.D. (0.0016)	0.0037	0.00096

注) N.D. は、not detected(検出下限値未満)を示し、括弧内の数字は検出下限値を示す。

＜宇多川C 一般分析項目・放射性物質分析項目 底質＞

項目	調査緯度・経度		調査日時		pH	酸化還元電位 E _{N.H.E} (mV)	含水率 (%)	IL (%)	TOC (mg/g-dry)	土粒子の密度 (g/cm ³)	粒度組成								Cs-134 (Bq/kg-dry)	Cs-137 (Bq/kg-dry)	Sr-90 (Bq/kg-dry)
	緯度	経度	日	時刻							礫 (2～75mm) (%)	粗砂 (0.85～2mm) (%)	中砂 (0.25～0.85mm) (%)	細砂 (0.075～0.25mm) (%)	シルト (0.005～0.075mm) (%)	粘土 (0.005mm未満) (%)	中央粒径 (mm)	最大粒径 (mm)			
C－6	37.7764°	140.8877°	R6.6.26	10:34	7.6	465	22.4	1.1	0.7	2.680	18.2	52.4	27.3	1.4	0.7		1.2	4.8	0.49	36	0.25

注) N.D. は、not detected(検出下限値未満)を示し、括弧内の数字は検出下限値を示す。

＜宇多川C 分析項目 水生生物＞

地点	採取場所	調査緯度・経度		採取日	門	綱	目	科	学名	和名	個体数	採取重量 (kg-wet)	特記事項			放射性セシウム(Bq/kg-wet)			Sr-90 (Bq/kg-wet)
		緯度	経度										成長段階	消化管内容物	測定部位	計	Cs-134	Cs-137	
C-6	宇多川本流	37. 7764°	140. 8877°	R6. 6. 22	藻類・植物	—	—	—	—	河床付着物（藻類を含む）	—	0. 0036	—	—	—	21	N. D. (8. 3)	21	—
					藻類・植物	接合藻	ホシトモ	ホシトモ	<i>Spirogyra</i> sp.	アオミドロ属	—	0. 20	—	—	—	1. 1	N. D. (0. 26)	1. 1	—
					節足動物	昆虫	ヒゲケラ	ヒゲナガワトビケラ	<i>Stenopsyche marmorata</i>	ヒゲナガカワトビケラ	166	0. 028	幼虫	—	—	9. 8	N. D. (1. 9)	9. 8	—
					節足動物	昆虫	トンボ	エゾトンボ	<i>Macromia amphigena amphigena</i>	コヤマトンボ	137	0. 026	幼虫(ヤコ)	—	—	2. 7	N. D. (1. 4)	2. 7	—
					節足動物	昆虫	トンボ	オニヤンマ	<i>Anotogaster sieboldii</i>	オニヤンマ									
					節足動物	昆虫	トンボ	サエトンボ	<i>Nihonogomphus viridis</i>	アオサナエ									
					節足動物	昆虫	トンボ	サエトンボ	<i>Meligomphus viridicostus</i>	オナガサナエ									
					節足動物	昆虫	トンボ	サエトンボ	<i>Sieboldius albardae</i>	コオニヤンマ									
					節足動物	昆虫	トンボ	サエトンボ	<i>Davidius</i> sp.	ダビドサナエ属									
					節足動物	昆虫	トンボ	サエトンボ	<i>Anisogomphus maacki</i>	ミヤマサナエ									
					節足動物	昆虫	トンボ	サエトンボ	<i>Asiagomphus melaenops</i>	ヤマサナエ									
					節足動物	昆虫	トンボ	トンボ	<i>Sympetrum</i> sp.	アカネ属									
					節足動物	昆虫	トンボ	ヤンマ	<i>Boyeria maclachlani</i>	コシボソヤンマ									
					節足動物	昆虫	ヘビトンボ	ヘビトンボ	<i>Protohermes grandis</i>	ヘビトンボ	78	0. 060	幼虫	—	—	1. 4	N. D. (0. 81)	1. 4	—
					節足動物	軟甲	エビ	アメリカザリガニ	<i>Procambarus clarkii</i>	アメリカザリガニ	6	0. 058	未成体/成体	—	—	3. 2	N. D. (0. 88)	3. 2	—
					節足動物	軟甲	エビ	ヌマエビ	<i>Paratya improvisa</i>	ヌカエビ	218	0. 098	未成体/成体	—	—	3. 3	N. D. (0. 53)	3. 3	—
					節足動物	軟甲	エビ	モクスガニ	<i>Eriocheir japonica</i>	モクズガニ	28	0. 31	未成体	—	—	4. 9	N. D. (0. 34)	4. 9	—
					脊椎動物	硬骨魚	ウナギ	ウナギ	<i>Anguilla japonica</i>	ニホンウナギ	1	0. 045	未成魚	—	—	1. 7	N. D. (0. 95)	1. 7	—
					脊椎動物	硬骨魚	コイ	コイ	<i>Opsariichthys platypus</i>	オイカワ	42	0. 16	未成魚	—	—	4. 4	N. D. (0. 90)	4. 4	—
					脊椎動物	硬骨魚	コイ	コイ	<i>Pseudogobio esocinus esocinus</i>	カマツカ	1	0. 013	未成魚	—	—	N. D.	N. D. (3. 5)	N. D. (2. 8)	—
					脊椎動物	硬骨魚	コイ	コイ	<i>Candidia temminckii</i>	カワムツ	16	0. 12	未成魚	—	—	2. 4	N. D. (0. 42)	2. 4	—
					脊椎動物	硬骨魚	コイ	ドジョウ	<i>Misgurnus anguillicaudatus</i>	ドジョウ	5	0. 015	未成魚	—	—	N. D.	N. D. (2. 8)	N. D. (2. 5)	—
					脊椎動物	硬骨魚	サケ	アユ	<i>Plecoglossus altivelis altivelis</i>	アユ	252	2. 6	未成魚/成魚	—	—	6. 3	N. D. (0. 78)	6. 3	0. 12
					脊椎動物	硬骨魚	サケ	サケ	<i>Oncorhynchus masou</i>	ヤマメ	1	0. 14	成魚	空胃	内臓除去	5. 3	N. D. (0. 46)	5. 3	—
					脊椎動物	硬骨魚	スズキ	ハゼ	<i>Rhinogobius fluviatilis</i>	オオヨシノボリ	38	0. 13	成魚	—	—	5. 7	N. D. (0. 67)	5. 7	—
					脊椎動物	硬骨魚	スズキ	ハゼ	<i>Rhinogobius nagoyae</i>	シマヨシノボリ									
					粗粒状有機物	—	—	—	—	水底落葉等	—	0. 25	—	—	—	14	N. D. (1. 3)	14	—

※１：生物は、当該調査水域またはその周辺で採取したものである。

※２：水生生物を複数採取できた場合は、これらを混合して試料とした。

※３：複数種の混合試料においては、最も多く採取できた優占種を、和名に下線で示した。

※４：生物試料は、全個体を測定することを原則とするが、消化器系に残留した未消化の餌料や底泥等は測定しないよう、 内臓（胃、腸）の除去が可能な試料については、 除去して測定した。

※５：プランクトン（浮遊藻類）とは、湖沼水または海水を40μmのプランクトンネットで濾した残留物を指す。

※６：河床付着物（藻類を含む）とは、石に付着した藻類をブラシ等で掻き落としたものであるが、無機態のシルト・粘土等の微細粒子が含まれることがある。

※７：N. D. は、not detected(検出下限値未満)を示し、括弧内の数字は検出下限値を示す。

※８：放射性物質濃度の数値には計数誤差等が含まれているが、本報においては記載していない。